

CITY OF YOKOHAMA

**市民の皆様のご協力により 先行9区で大幅に削減
～プラスチックごみの分別・リサイクルの状況について～**

2025年5月30日
市長定例記者会見



1 市民の皆様と共に進める脱炭素化

- ✓ 本市では、「市民の行動変容」をはじめ4つの柱で脱炭素化を推進
- ✓ 市民の皆様のご協力により、様々な脱炭素の取組が展開中

横浜市脱炭素に向けた4つの柱

事業者の行動変容

市民の行動変容

市役所の率先行動

脱炭素イノベーション



市民の皆様と進める様々な取組(一例)



廃食油をSAF
(持続可能な航空燃料) へ



町内会館に設置した
太陽光パネル



食品ロス削減SDGsロッカー



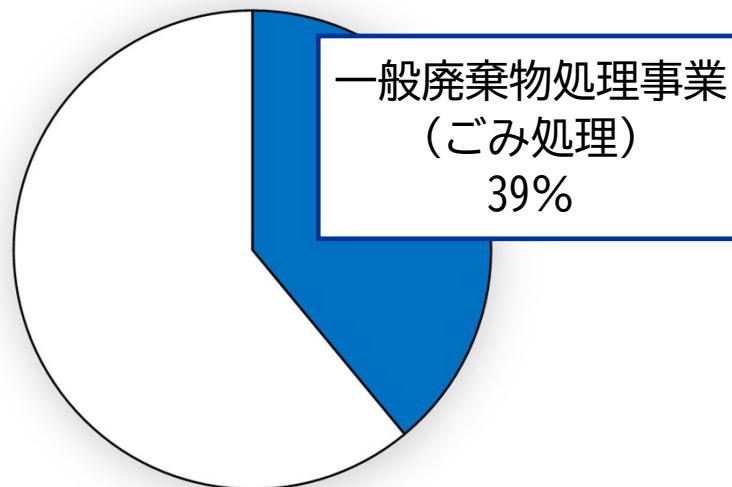
2 取組の背景

- ✓ 市の事業に伴う温室効果ガスの排出のうち、ごみ処理による排出は 約4割
- ✓ その9割はプラスチックなど石油由来のごみの焼却によるもの

温室効果ガスの削減に向け、焼却されるプラスチックごみの削減を進める必要

市の事業に伴う温室効果ガスの排出量

84.4万t-CO₂ (令和4年度実績)



3 取組の概要

- ✓ 「ヨコハマ プラ5.3計画」を策定（令和6年1月）

目 標

2030年度(令和12年度)までに燃やすごみに含まれる
プラスチックごみの量を2万トン削減(2022年度(令和4年度)比)

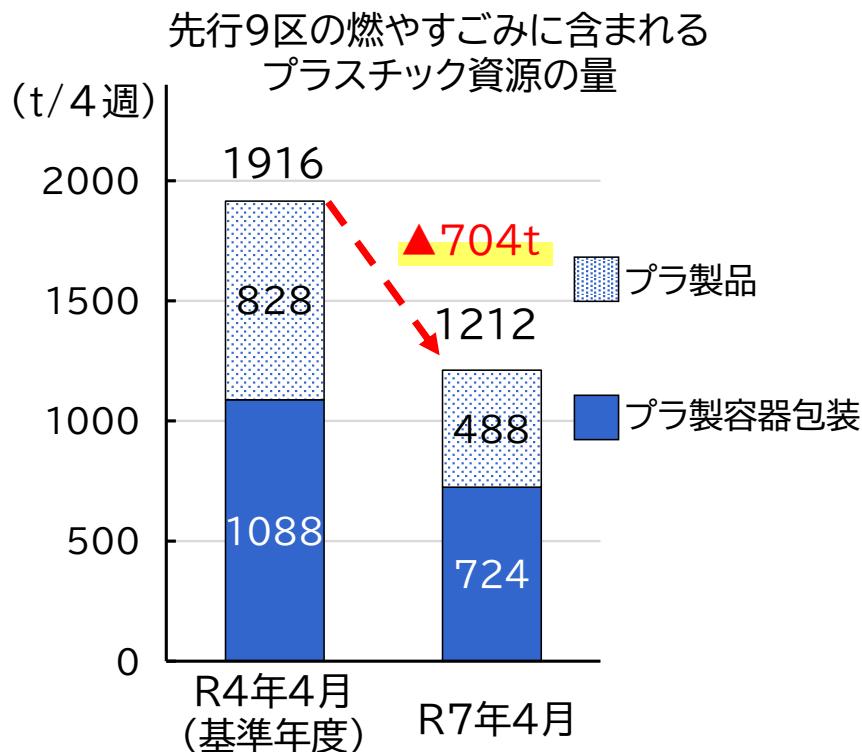
1人あたりに換算すると ▲5.3kg／年

- ✓ プラスチック製容器包装に、新たにプラスチックのみでできた製品を加え
「プラスチック資源」とした収集を、令和6年10月に9区※で先行実施
- ✓ 令和7年4月から全市域で開始

※旭区、泉区、磯子区、金沢区、港南区、栄区、瀬谷区、戸塚区、中区の9区

4 先行実施した9区の結果

- ✓ 開始から6か月が経過した先行9区において、燃やすごみに含まれるプラスチック資源の量が基準年度同月比で、**704t 削減**
- ✓ 先行9区の市民1人・年間換算で、**計画目標値を上回る5.6kg 削減**



燃やすごみに含まれるプラスチック資源
1人当たり年間削減量

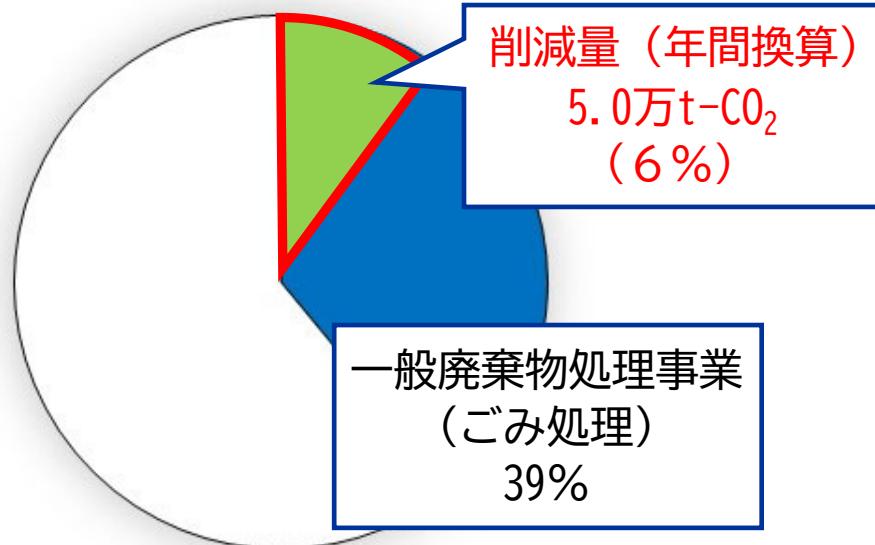
▲5.6kg／(人・年)

計画目標値: ▲5.3kg／(人・年)

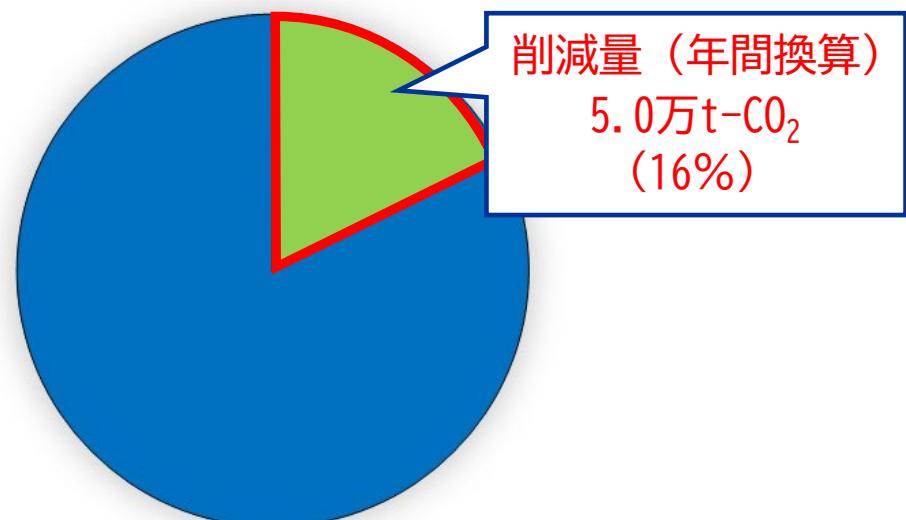
5 分別拡大による効果・成果①

- ✓ 今回の結果が全市で1年間続いた場合の温室効果ガス削減量は 5.0万t-CO₂
- ✓ 市の事業に伴う温室効果ガス排出の 6%
- 石油由来のごみの焼却に伴う温室効果ガス排出の 16%に相当

市の事業に伴う温室効果ガスの排出量
84.4万t-CO₂（令和4年度実績）

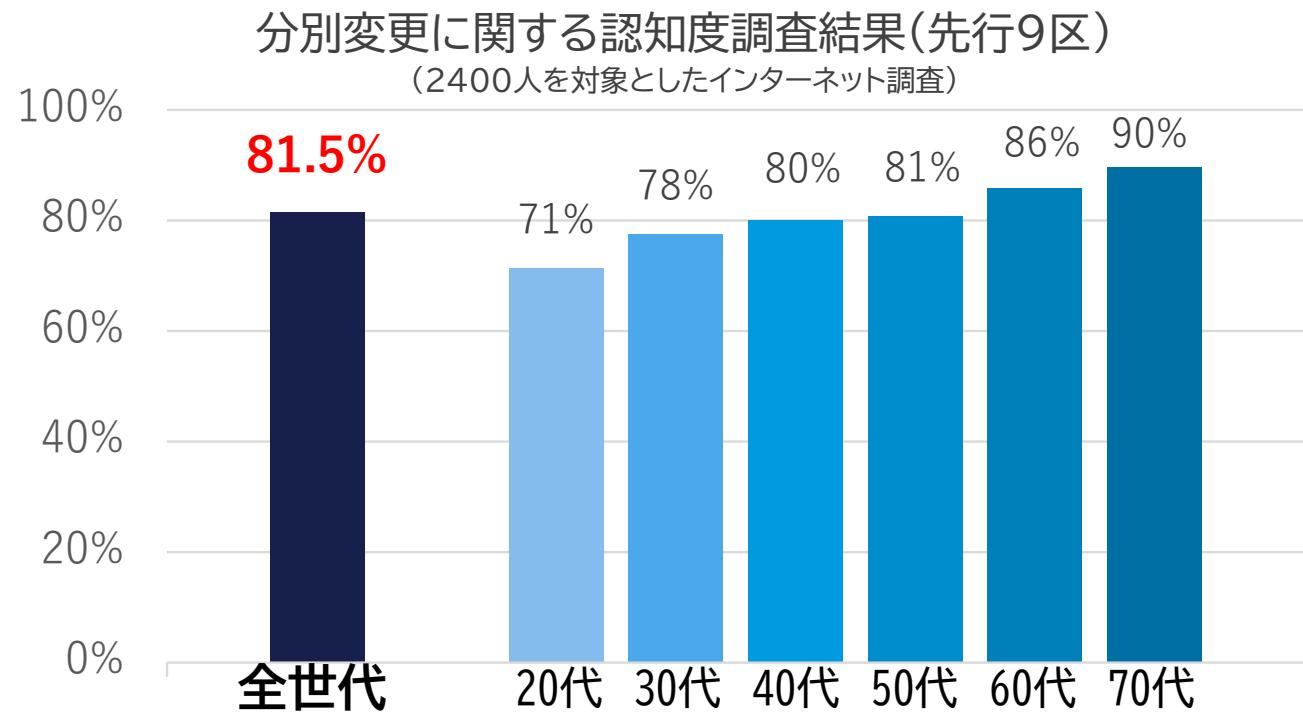


石油由来のごみ処理に伴う温室効果ガスの排出量
30.6万t-CO₂（令和4年度実績）



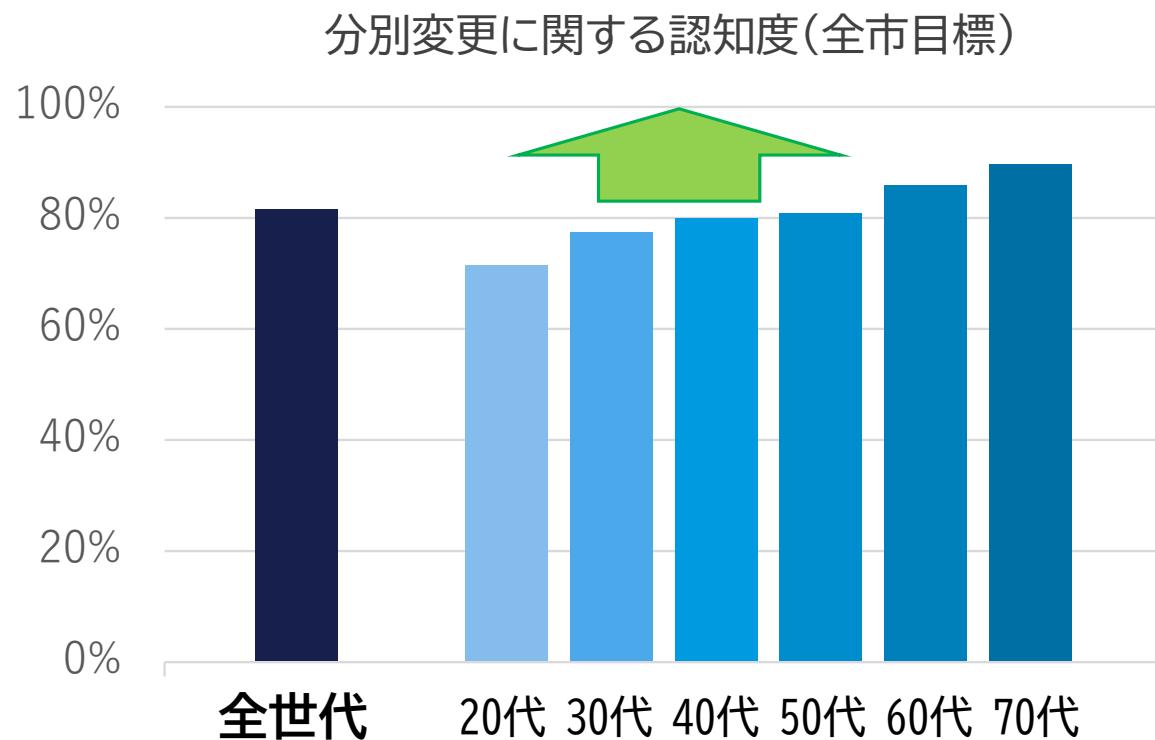
5 分別拡大による効果・成果②

- ✓ プラスチックごみの分別変更に関する認知度は全世代で **81.5%**
- ✓ **身近な脱炭素行動を多くの方が認識**



6 今後の取組

- ✓ 全ての市民の皆様に取組の重要性を認識していただき、更なるプラスチックごみの削減を進めていきます。



多様な媒体・方法での周知

デジタル
広告・広報

場所・時間を選ばず
「分別に関心が薄い市民」や
「若年層」へ周知

+

対面

地域での啓発

直接市民の方に周知
6月の環境月間では
「プラごみ削減キャンペーン」として
小売店で集中的に啓発

市民の皆様のご協力をいただきながら
プラスチックごみの削減を進めるとともに
脱炭素につながる行動変容を促すことで
グリーン社会の実現を目指します。



GREEN × EXPO 2027
YOKOHAMA JAPAN

公式マスコットキャラクター トゥンクトゥンク

2027年国際園芸博覧会
2027年3月～9月 横浜・上瀬谷

©Expo 2027

